



小学校との  
連携・協働

小中一貫教育でめざす子ども像

地域との  
連携・協働

子ども園との  
連携・協働

- (1) 自分のよさや可能性に気づき、夢の実現に向けて意欲を持ち、粘り強く努力する子ども
- (2) 9年間で、知・徳・体をバランスよくはぐくみ、自分の成長を実感して自ら可能性を広げていく子ども
- (3) 仲間や地域の人たちと積極的にかかわり、自他のよさを認め合い、自分も相手も大切に  
する子ども
- (4) 瀬戸谷の人・自然・文化・産業等について深く理解し、郷土を大切にする子ども

家庭との  
連携・協働

瀬戸谷らしい「小中一貫教育」の構築

「子どもたちの学びと育ちが9年間で積み上がっていく」教育の創造

小中9年間をつなげ、「小5、6アップ」「中学生サポート」を中心とした多様な学びを創り出し、子どもたちが「わかった・できた」という笑顔あふれる学校づくりを進める。

重点目標

新たな発見・追求



瀬戸谷ピア・サポート  
キャラクター  
「瀬ピア」

学びを実感する  
授業の推進

生徒の基礎的な学力をさらに高めるとともに、学ぶ意欲を引き出し、新たな自分を発見し深い学びを追求していく授業を推進する。

- 授業の内容を理解 R4 81%→R5 87%
- 授業で自分の考えを発表 R4 57%→R5 65%
- (1) 生徒が自分の成長を実感できる授業の推進  
「確かな学力の保障」「考えや思いをもつ」「多様な考え方にふれる伝え合い」「成長実感や更なる追求へつながる振り返り」
- (2) 生徒指導が機能する授業の推進  
「共生の学びの保障」「心を育てる」「可能性を広げる」
- (3) 基礎学力の定着、自主学習の推進  
「授業、家庭学習、読書活動の継続と充実」

教科指導

個の力を  
強める

自己肯定感を育てる・高める・強める  
すべての教育活動の中で生徒の良さと可能性を引き出す、伸ばす。

- 私には良いところがある R4 76%→R5 85%
- (1) 全員が活躍
- (2) 個を鍛える
- (3) 多様性、多面的な見方を育む

思いやりの心と自主・自立  
を育む集団活動の推進

生徒が集団での活動を通して、その目標達成の成就感を味わうことができるようにするとともに、新たな自分を発見し可能性を広げ深める集団活動を推進する。

- ピア・サポート活動を意識した生活 R4 92%→R5 95%
- 失敗を恐れずに挑戦 R4 70%→R5 75%
- (1) 仲間と思いを一つにして自分たちで目標に向かって取り組むことを繰り返し体験
- (2) 異学年集団での活動の充実（小中合同「せとやっこ体育祭」、「せとやっこ総合」、「歌おう活動」「学習」など）
- (3) ピア・サポート活動の全教育活動での浸透・推進
- (4) 継続的な地域との連携、校区外との交流によるキャリア教育の充実

教科外指導

縦と横の連携を深め「チーム瀬中（チーム瀬戸谷）」で指導・支援

学年（縦）・分掌（横）の連携を強め、重層的な指導・支援体制を整えることによって、生徒が新たな自分を発見・追求できる環境づくりを進める。

- 学校生活が楽しい R4 97%→R5 100%
- いじめのない学校・学級づくりに取り組んでいる R4 89%→R5 95%
- (1) 学び続ける・磨き続ける教職員集団の構築
- (2) 学年部や学習部、特活部、サポート部等の各組織が生徒の力を引き出し、伸ばす機能をさらに高めるとともに、組織間の連携をより強める（支援員、指導員、SC、SSW、外部機関との連携）
- (3) 生徒のあられ等々を教職員間で日常的に情報交換し、効果的な生徒への指導・支援に活かす
- (4) 生徒の活動を認める場、価値づける機会を意図的に設定する。（授業・朝帰りの会・集会・掲示・たより等）
- (5) C・Sの充実により、地域の教育力を積極的に活用し、「地域とともにあるチーム瀬戸谷」をさらに高める
- (6) 勤務環境の改善を更に進める  
校務の整理（「やめる」「減らす」「変える」の視点と「継続（目的の確認）」の視点での教育課程編成）  
教職員の意識改革（毎週水曜日に定時退庁日設定、見通しをもち効率的に校務にあたる意識の向上）

学校運営